

## 予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業 項：水産業費 目：水産研究費

## 事業名 水産研究所試験調査費（国補・県単）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

水産研究所 電話番号：0586-89-6352

E-mail：c24101@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,664 千円（前年度予算額：6,094 千円）

&lt; 財源内訳 &gt;

| 区 分 | 事業費   | 財 源 内 訳    |            |            |            |     |       |     |            |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-------|-----|------------|
|     |       | 国 庫<br>支出金 | 分担金<br>負担金 | 使用料<br>手数料 | 財 産<br>収 入 | 寄附金 | その他   | 県 債 | 一 般<br>財 源 |
| 前年度 | 6,094 | 1,479      | 0          | 0          | 0          | 0   | 2,600 | 0   | 2,015      |
| 要求額 | 3,664 | 1,484      | 0          | 0          | 0          | 0   | 423   | 0   | 1,757      |
| 決定額 | 3,664 | 1,484      | 0          | 0          | 0          | 0   | 423   | 0   | 1,757      |

## 2 要求内容

## （ 1 ）要求の趣旨（現状と課題）

地域の河川漁業、養殖業が抱える多様な課題に対して迅速、柔軟に対応するため、現場のニーズを的確に把握し、行政と一体となって新技術開発や技術支援を実施する。河川漁業のうち、アユについては感染症の蔓延防止策及び放流事業の効率化、アマゴ等渓流魚ではより効果的な放流技術の開発が課題となっている。養殖業では、アユ冷水病など感染症の蔓延防止策や生産の効率化とともに、高付加価値魚の生産や地域ブランドの開発に対する強い要望がある。また、全国や地域で問題となる課題に対しては、幅広い分野の技術シーズを活用することにより、本県の内水面水産業における技術的課題の早期解決を図ることが求められている。

## （ 2 ）事業内容

県内の水産業界が抱える多種多様な課題に対して機動的・即応的に対応するため、以下の研究開発 8 課題を実施する。

## （県単試験調査費）

ドローンによるカワウの追払対策及び調査技術研究

アユ養殖における細菌病の迅速診断法の開発

水田魚道を用いたフナ等の増殖方法の確立  
付加価値の高い優良養殖魚種の開発および飼育技術確立研究  
チョウザメの種苗生産技術に関する研究  
水防災・農地・河川生態系・産業文化への複合的な気候変動影響と適応策の研究

(国補試験研究費)  
環境収容力推定手法開発事業(アユ)  
環境収容力推定手法開発事業(溪流魚)

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額    | 事業内容の詳細                    |
|------|-------|----------------------------|
| 旅費   | 433   | 研究推進のための出張用旅費              |
| 需用費  | 2,815 | 研究用消耗品購入費、出張用公用車燃料費、飼育用餌代等 |
| 役務費  | 226   | 電話代・郵便代                    |
| 委託料  | 150   | 研究推進のための業務を委託する費用          |
| その他  | 40    | 出張に必要な高速道路料金               |
| 合計   | 3,664 |                            |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定める方針。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられる予定。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
「良く釣れる川づくり」、「売れる水産物づくり」に向けて、河川漁業に対しては、「天然資源の持続的な管理」、「効率的な増殖方法」に関する技術開発、養殖業に対しては、「より効率的な生産体制の構築」、「新たな地域特産品の創出」に関する技術開発に取り組む。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名                       | 事業<br>開始前      | 指標の推移          |                | 現在値<br>(前々年度末時点) | 目 標           | 達成率   |
|---------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------|---------------|-------|
| 技術移転の推進<br>関連企業への技術移<br>転 | 4 件<br>( H29 ) | 4 件<br>( H30 ) | 4 件<br>( H31 ) | 4 件<br>( R2 )    | 5 件<br>( R3 ) | 8 0 % |

○ 指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
○下記の8課題の研究開発を実施し、既に技術確立したものについては、試験研究成果普及カード、研究所の研究報告への掲載等、行政機関と連携しながら普及に努めた。

- (1)ドローンによるカワウの追払対策及び調査技術研究
- (2)アユ養殖における細菌病の迅速診断法の開発
- (3)水田魚道を用いたフナ等の増殖方法の確立
- (4)付加価値の高い優良養殖魚種の開発および飼育技術確立研究
- (5)チョウザメの種苗生産技術に関する研究
- (6)水防災・農地・河川生態系・産業文化への複合的な気候変動影響と適応策の研究
- (7)環境収容力推定手法開発事業（アユ）
- (8)環境収容力推定手法開発事業（溪流魚）

( 前年度の成果 )

・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
○河川漁業者、養殖生産者の視点に沿った研究開発、技術指導を行政と連携しながら実施した。これまでに、「冷水病に強いアユ種苗」、「早期遡上アユの漁獲実態」、「サツキマス放流種苗」、「ナマズの養殖技術」、「カジカ中卵型の養殖技術」、「渓流魚の放流技術」等、新種苗や多くの技術が現場へ普及し、河川漁業や養殖生産の安定、生産魚の高品質化、ブランド開発に貢献した。また、県内の養殖業において生産の阻害要因となっている主要魚病についての防疫対策を実施するとともに、診断技術の向上を図り、治療予防技術の開発・普及に努めた。さらに、マス類の効率的な生産のための飼育技術や種苗生産技術の改良を行うとともに、マス類優良系統保存と生産者に対してこれら種苗の供給を行った。

## 2 事業の評価と課題

( 事業の評価 )

|                                                                                        |                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）<br>○：必要性が高い                      ：必要性が低い             |                                                                                     |
| (評価)<br>○                                                                              | 河川漁業、内水面養殖業はともに低迷状態が続いていることから、県内の漁業協同組合や養殖業界から産業振興のための新技術の開発及び支援が求められており、事業の必要性は高い。 |
| ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）<br>○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている<br>：まだ期待どおりの成果が得られていない |                                                                                     |
| (評価)<br>○                                                                              | 毎年新たな技術移転を継続して実施してきた結果、養殖生産量が増加した。また、地域ブランドとしてのチョウザメ・カジカ・ナマズ養殖への関心が高まる等、事業効果が現れている。 |
| ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）<br>○：効率化は図られている                      ：向上の余地がある           |                                                                                     |
| (評価)<br>○                                                                              | 各研究課題について、提案及び予算要求の段階から内容を十分に精査し、経費の削減に努めている。また、各課題間での設備備品の共用等により経費執行の効率化を図っている。    |

( 今後の課題 )

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項  
○河川漁業のうち、アユについては、冷水病やエドワジエラ・イクタルリ感染症の蔓延防止策及び放流事業の効率化が求められている。アマゴ等渓流魚では、より効果的な放流技術の開発が望まれている。養殖業では、生産の効

率化とともに、高付加価値魚の生産や地域ブランドの開発に対する強い要望がある。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

○県内の河川漁業及び養殖業の振興を図るため、河川漁業に対しては、冷水病菌、エドワジエラ・イクタルリ菌の放流種苗への保菌検査結果を漁協に提供する等、健全なアユの放流種苗の確保を支援するとともに、天然アユの遡上状況を考慮した効率的な放流モデルを開発する。アマゴ等渓流魚についても、より効果的な放流技術の開発に取り組んでいく。養殖業については、付加価値の高いマス類の卵の供給に加え、商品性の高い大型マス用種苗の研究を引き続き継続する。また、新たな地域ブランドとしてのチョウザメやカジカ、ナマズの養殖技術の普及に努める。

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産研究費

## 事業名 子持ちアユ生産支援事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

水産研究所 資源増殖部 電話番号:0586-89-6352

E-mail : [c24101@pref.gifu.lg.jp](mailto:c24101@pref.gifu.lg.jp)

## 1 事業費

2,765 千円（前年度予算額：2,787 千円）

< 財源内訳 >

| 区 分 | 事業費   | 財 源 内 訳    |            |            |            |     |     |     |            |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
|     |       | 国 庫<br>支出金 | 分担金<br>負担金 | 使用料<br>手数料 | 財 産<br>収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般<br>財 源 |
| 前年度 | 2,787 | 0          | 0          | 0          | 2,787      | 0   | 0   | 0   | 0          |
| 要求額 | 2,765 | 0          | 0          | 0          | 2,765      | 0   | 0   | 0   | 0          |
| 決定額 | 2,765 | 0          | 0          | 0          | 2,765      | 0   | 0   | 0   | 0          |

## 2 要求内容

( 1 ) 要求の趣旨 ( 現状と課題 )

- ・当所では、性転換雄の精液（以下「全雌化精液」という）を利用して、雌アユだけを生産できる技術を開発した。
- ・雌アユは、子持ちアユとして利用されるが、単価が高いため養殖業者は通常のアユより高収益があげられる。
- ・県内養殖業者より強い要望があったため、「全雌化精液」を安定供給することにより、雌アユだけの生産を支援し、県内養殖業者の収益の向上を図ることを目的として平成２０年度より本事業を実施している

(2) 事業内容

県内需要を満たす性転換雄アユを生産し、全雌化精液を県内民間養殖場に販売する。

【歳入】 3,410千円 (「全雌化精液」 1,100ml を販売予定)

【歳出】 2,765千円

( 3 ) 県負担・補助率の考え方

全雌化精液の生産に必要な事業費は、全額精液の販売による歳入を充当する。

( 4 ) 類似事業の有無

魚類精液販売に関する類似事業はない。

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額    | 事業内容の詳細                    |
|------|-------|----------------------------|
| 人件費  | 408   | 飼育補助員の賃金、共済費               |
| 旅 費  | 21    | 飼育補助員の通勤手当相当額              |
| 需用費  | 2,105 | 生産に必要な消耗品、ポンプ用電気代、飼料費      |
| 役務費  | 231   | 全雌化精液の委託販売手数料、廃棄物の手数料、郵便料金 |
| 合計   | 2,765 |                            |

**決定額の考え方**

「途中経過」または「予算案の決定（知事査定後）」  
の公開の際に記載します。

4 参考事項

( 1 ) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想中間見直し - 1 - ( 2 ) 未来につながる農業づくりの中で、アユ養殖の生産振興の必要性が指摘されている。

( 2 ) 国・他県の状況

全国的にもアユ精液の販売・流通は皆無である。

( 3 ) 後年度の財政負担

財政負担はない。

事業の継続については、県内生産者からの要望を聴きながら判断していく。

( 4 ) 事業主体及びその妥当性

現在、日本国内で「全雌化精液」の生産できる機関は、水産研究所のみである。「全雌化精液」の流出を防ぎ、品質の良い「全雌化精液」を安定供給するためにも、事業は水産研究所で実施するのが妥当である。

# 事業評価調査（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業  
☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
付加価値の高い子持ちアユの効率的生産を通じて、県内アユ養殖業の価格競争力を高めるとともに収益性を向上させることにより、県内のアユ養殖生産量を増加させ、アユ養殖業の振興を図ります。
- 長期構想  
ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり  
2 儲かる農業・林業・畜産業を実現し、持続可能な農山村をつくる
- ぎふ農業・農村基本計画  
第6章品目別の振興方向  
16 淡水魚 養殖業生産量 1,492 t（H26）→1,640 t（H32）

### （目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名     | 事業<br>開始前        | 指標の推移            |                  | 現在値<br>(前々年度末時点) | 目 標             | 達成率 |
|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-----|
| アユ養殖生産量 | 478.5 t<br>(H20) | 651.9 t<br>(H21) | 800.5 t<br>(H22) | 654 t<br>(H30)   | 1,200 t<br>(R2) | 55% |
| 全雌アユ生産量 | 82.5 t<br>(H20)  | 125.9 t<br>(H21) | 190.5 t<br>(H22) | 205 t<br>(R1)    | 220 t<br>(R3)   | 93% |

H20の全雌アユ生産は実用化試験による。

精液供給の翌年に生産物となる。

#### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
県内の民間アユ養殖業者から要望に応じて全雌化精液を安定供給できるように、全雌化精液を搾出できる特殊な雄アユを作出し養成しました。

( 前年度の成果 )

- ・ 令和元年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
平成 28 年度に 1,160mL、平成 29 年度に 1150ml、平成 30 年度は 500mL、令和元年度には 650mL の全雌化精液を県内民間養殖場に供給しました。  
令和 2 年度は 1,100mL を供給する予定です。

## 2 事業の評価と課題

( 事業の評価 )

|                                                                                              |                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ・ 事業の必要性 ( 社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か )<br>○ : 必要性が高い                      : 必要性が低い             |                                                                                         |
| ( 評価 )<br>○                                                                                  | 全雌化精液の供給は、子持ちアユの効率的生産を通じて県内アユ養殖業の価格競争力を高め、アユ養殖生産量の向上に繋がっている。このため県内生産者から精液供給に対する強い要望がある。 |
| ・ 事業の有効性 ( 指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか )<br>○ : 概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている<br>: まだ期待どおりの成果が得られていない |                                                                                         |
| ( 評価 )<br>○                                                                                  | 平成 20 年度のアユ養殖生産量 478.5 t ( 全国 5 位 ) に比べ、平成 30 年度は 654 t ( 全国 3 位 ) へと増加しており、事業効果が現れている。 |
| ・ 事業の効率性 ( 事業の実施方法の効率化は図られているか )<br>○ : 効率化は図られている                      : 向上の余地がある           |                                                                                         |
| ( 評価 )<br>○                                                                                  | 全雌化精液を搾出できる特殊な雄アユの生産にあたり、作業方法を見直し、経費の節減を図った。                                            |

( 今後の課題 )

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項  
民間養殖場で全雌化精液を生産することは、技術面及び施設面の観点から困難であるため、研究所が全雌化精液の生産を続けなくてはならない。

( 次年度の方向性 )

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか  
県内養殖生産者より全雌化精液供給の強い要望があるため、引き続きアユの全雌化精液の供給を実施していきます。

( 他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果 )

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | 【 ○ ○ 課 】 |
| 組み合わせる理由や期待する効果 など     |           |

